

茨城農業の担い手を育成する

～ 農業大学校の教育・研修～

茨城県立農業大学校は、学生が「自ら学び・考え・実践」することを教育方針に、講義と実習を密接に連携させることにより、農業に関する実務的な能力を身に付け、農業及び農村社会を担う就農者並びに農村地域において指導的役割を果たす農業指導者を育成しています。

一方、一般農業者を対象にした農業機械整備・操作の短期研修や幼稚園児等を対象とした農業体験を実施するとともに、平成16年度から開講している「いばらき営農塾」では、就農して間もない者等を対象に、営農技術の習得研修を実施しています。

● 部科及び学生数 ●

部科		修業期間	専攻コース等	20年度学生数(人)		
				1年次	2年次	計
農業部 (長岡キャンパス)	農学科	2年	水田・畑作	17	16	33
	畜産学科		酪農・養豚	4	4	8
	経営情報学科			5	4	9
	果樹園芸学科			4	3	7
園芸部 (岩井キャンパス)	野菜園芸学科			15	11	26
	花き園芸学科			3	3	6
研究科		2年	作物・園芸・畜産	7	9	16

● 学生の履修科目数及び取得単位数等み ●

区分	履修科目数	単位と時間数(時間)						教科外学習 実施時間数 (時間)
		講義		演習・実験・実習		計		
		単位	時間数	単位	時間数	単位	時間数	
農業部・園芸部	38～40	51～61	765～915	36～41	1,500～1,650	92～97	2,415	212～228
研究科	38～39	44～6	660～690	42～43	1,710～1,740	87～88	2,400	210

● 特徴的な教育の取り組み ●



課題解決型学習

プロジェクトや卒業論文では、学生が自ら課題を見つけ、課題解決の手法を用いて、計画を樹立し、計画に沿って実践し、成果を取りまとめ、反省評価することにより、課題解決能力の向上を図っています。関東ブロックや全国農業学校等プロジェクト実績発表会などの発表の場があります。

農家派遣実習

約1カ月間、農業経営士など先進的な農業経営者のもとで宿泊実習を行い、農業や農家の生活を体験することによって、農業に関する知識や技術を深めるとともに、将来の農業経営者としての経営感覚を養っています。



● 農業大学校卒業者の就農状況 ●

(単位：人、%)

項目 \ 年度	12	13	14	15	16	17	18	19	20
県内新規学卒就農者数	71	66	75	92	84	81	70	61	49
うち農大卒業生	31	31	30	38	24	33	23	24	23
同上割合 (%)	43.7	47.0	40.0	41.3	28.6	40.7	32.9	39.3	46.9

● 学生の主な資格取得の状況 ●

資格等の種類	平成20年度卒業生取得者数(人)
大型特殊自動車運転免許	56
大型特殊自動車けん引運転免許	16
家畜人工授精師免許(畜産学科)	6
危険物取扱者資格	4
情報処理活用能力検定(経営情報学科)	1
農業機械士	35
農業用無人ヘリコプター	8
アーク溶接特別教育	61
小規模ボイラー取扱資格(園芸部)	26
小型車両系建設機械取扱資格(園芸部)	25



大型特殊自動車運転免許取得研修では、多くの学生が免許を取得しています。

● 主な短期研修の実施状況 ●

研修等の種類		実施日数(日間)	研修人員(人)	研修対象者
農業機械	大型特殊免許取得研修	3 ~ 5	186	農大学生、農業者他
	農業機械士技能認定研修	5 ~ 7	50	農大学生、農業者他
	農業用無人ヘリコプター研修	15	8	農大学生
	農業機械整備研修	6	7	農大学生(研究過程)
	農業機械基礎研修	1	45	農業者
	農業機械特別研修	1	9	農業者
	計		305	
農業技術	いばらき営農塾	24 ~ 28	126	農業者
	オープンキャンパス	4	125	高校生等
	児童研修(収穫体験)	1	2,007	幼稚園児等
	計		2,258	

● 研修の様子 ●



出前講座・インターンシップ等の実施

農業や自然、動植物などに関心のある高校生などを対象に出前講座の開催やインターンシップの受け入れなどで農業を学び、農作業を体験する機会を提供することにより、農業・農村の理解促進と職業選択に資するとともに、将来における学生確保と茨城農業の担い手の確保につなげることをねらい、銚田農業高校など12高校で開催しました。

オープンキャンパスの開催

オープンキャンパスは年4回開催しています。参加者は主に高校生で、模擬授業や実習体験を通して農業大学校の教育の一端に触れ、農業を学びかけとなっています。

